

ジャパンサーチ連携機関向けキュレーションワークショップ

2026.2.27

事例報告

ワークスペース機能を利用した 学芸員資格課程での授業実践

菅井 薫(SUGAI, Kaoru)

大阪市立自然史博物館外来研究員

自己紹介

菅井 薫(SUGAI, Kaoru)

研究の専門

博物館研究（博物館教育）、生涯学習論、市民参加論

職歴・教育歴

- 複合施設型の総合博物館、歴史博物館において主に教育普及事業を担当。
- 現在は、専門学校、大学、大学院において学芸員資格課程科目、社会教育主事課程科目などを担当。

詳細はresearchmap
をご参照ください。



今日の流れ

1

- ▶ **ワークスペース利用の背景、経緯**
 - なぜ授業で採用したのか
 - 限られた時間で何を活用するか

2

- ▶ **実践のねらい**
- ▶ **実践内容、プロセス**

3

- ▶ **実践から何が得られたのか：成果**
 - 受講者にとって
 - 課題、要望

ジャパンサーチ・ワークスペースの利用

2025年度の授業から利用開始

・博物館教育論

博物館教育活動の企画と実施

オンラインでの
ワークシート／展示づくり

※過年度はアナログで実施
準備物の多さ、提出確認の手間…

・博物館情報・メディア論

資料のドキュメンテーションとデータベース化、学習活用

*博物館と知的財産について既習

オンラインでの展覧会づくり



なぜ授業で採用したのか

- アプリケーションソフト使用に関する受講生の習熟度に左右されにくい。
- フィードバックがしやすい。
全体にも共有できる。

ページ内にテキストパーツを追加して、教員がコメントをフィードバックする。

【コメント・菅井】

班内での質問とそれに対する答えのやり取りが、いずれも作品を根拠にして展開されており、問いを考えるうえで重要なものになっていますね。問いに対する答えについては、「自立」とは何を意味するかについてそれぞれの見解が示されていることから、班内で話し合いがしやすいのではないのでしょうか。展覧会作成者からは、「現代でよく議論される理想の男女のあり方は果たしてどちらなのか」という問いも出されていますので、ぜひ対面で話をしてみてください。

• 授業の記録、保存の省力化

—過去の授業実践を授業で参照できる。

受講者にとってはモデリングとなり、教員にとっては改善のための資源となる。

限られた時間で何を活用するか

【博物館情報・メディア論】

- ギャラリー作成
レイアウトパーツを含めた機能を使いこなす。
…「見せ方」の工夫

省略

【博物館教育論】

- 問いに関連した資料／作品を見つける。
- 資料／作品と連動した問いづくり。
- 【手段として活用…インポート機能】
- 教員が作成した見本ページ（JSONファイル）をインポートする。
- テンプレートをインポートする。

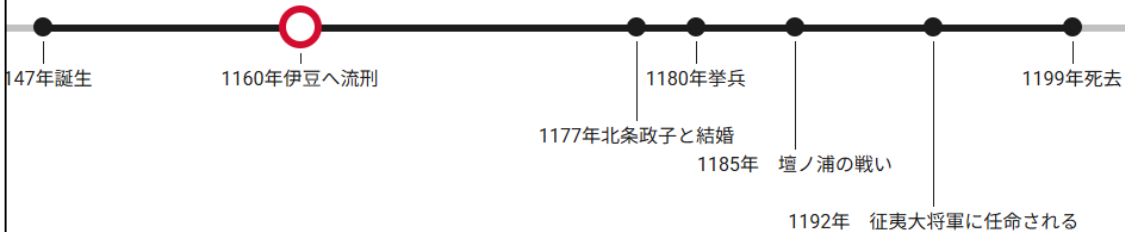


皆さん、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

年始には初夢、初日の出、初詣、初仕事といった初〇〇といった言葉を耳にする機会が多いと思います。さらに、昨年は史上初と言われた猛烈な暑さだった夏や、日本で初めての女性の内閣総理大臣の誕生など〇〇初という言葉がニュースを賑わしました。今年最初の特別展は年始に縁起の良く、タイムリーな言葉でもある『初』という言葉に関係した最初の〇〇偉人展を開催します。日本の歴史上の人物で初代〇〇や、最初〇〇のといった肩書きがある源頼朝、足利尊氏、徳川家康、と言った人物の肖像画、写真、直筆の書状といった縁の品を展示します。

今までは、歴史に興味がありませんでしたという人もこの展覧会で初がつく偉人を学んでみませんか？

源頼朝年表



1160年伊豆へ流刑

作成例：

博物館情報・メディア論

年表パーツの使用

タブパーツの使用



「三つ葉葵紋」をさがせ!

衣類

武具

娯楽

陣羽織 緋羅紗地 三つ葉葵紋付(童子用)



実践のねらい：博物館教育論

- 「目的（狙い・意図）」をもって作品／資料を選ぶ。
- 教育活動をつくる（展示をつくる）側—見る側の両方の立場から、資料／作品の解釈を交換する。
 - 資料／作品の理解を深めるための問いづくりやテーマ設定から、新たな解釈を生むための仕掛け（教育的働きかけ、アプローチ）を実践的に学ぶ。

問いに対する考えを深めることが、資料／作品をよく見る／理解することにつながるようにする。

実践概要：博物館教育論

- 他の受講者に紹介したい資料／作品を複数選び、オリジナルの解説文を作成し、ジャパンサーチの「ワークスペース」＞ギャラリー上にオンラインのワークシート／展覧会をつくる。
- ワークシート／展覧会全体（複数の資料／作品の鑑賞）を通じた問い（考えたいこと）を1つを考え、設定する。

• ギャラリー完成後

同じグループの人からの質問に答える。

最後にグループ全員で資料／作品をもとに「問い」について考える。

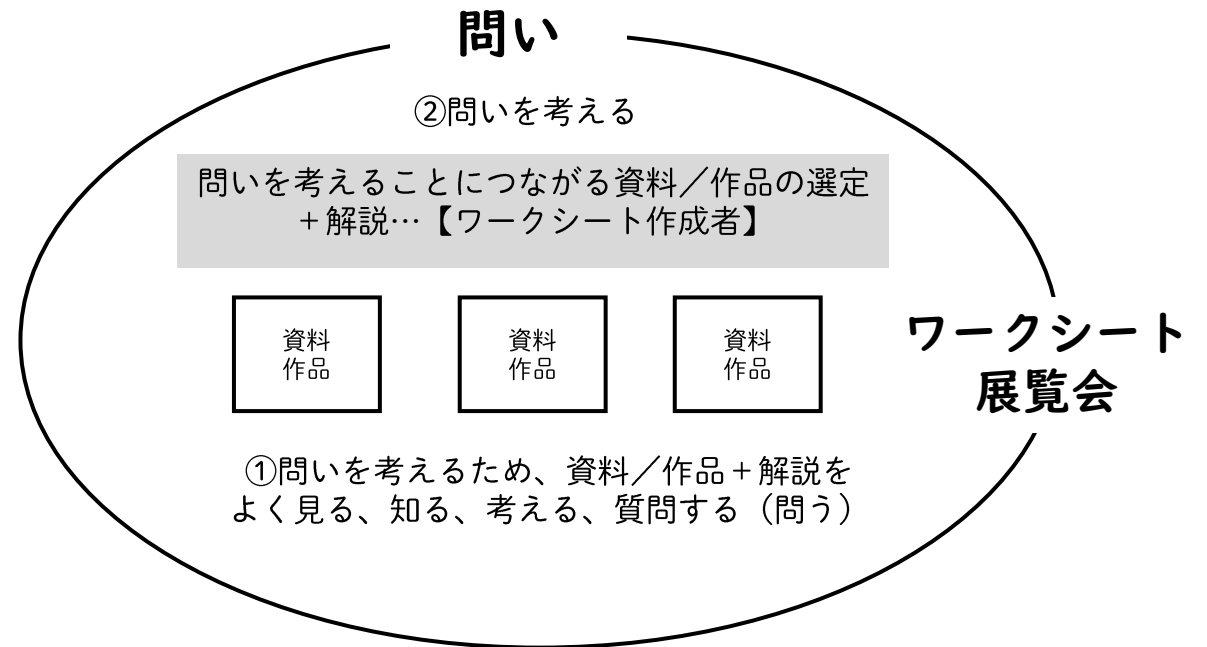


図 活動内容のイメージ

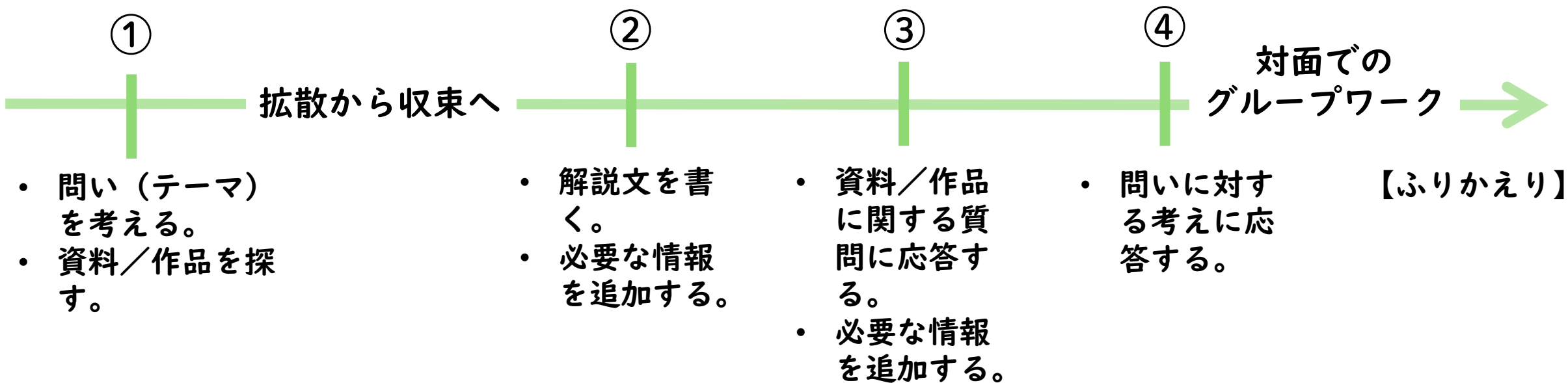
活動のプロセス：博物館教育論

【ガイダンス】

- ジャパンサーチについて
- ワークスペース機能について

【環境】

- 学内Wi-Fi接続
- PC教室の利用もしくはノートPC持参／貸出利用



*授業時間90分前後×3,4コマでの計画、受講者数は30名以内

学び合いを可能にする：「見て学ぶ」

- 編集画面から教員や他の受講者が作成したギャラリー（共有編集）
- 連携機関が作成したギャラリー（参照）*文章やテーマ、資料／作品の選定

作成例：博物館教育論



島崎藤村から見る 多様性の空洞化

理解できない他者は悪役なのか



馬とわたしたち

人間は馬に何を託し、何を消費したのか



AI生成された作品はアートであるのか？

実際のAI作品を事例に考えてみる 🤖



ホガース作品からみる男女平等とは

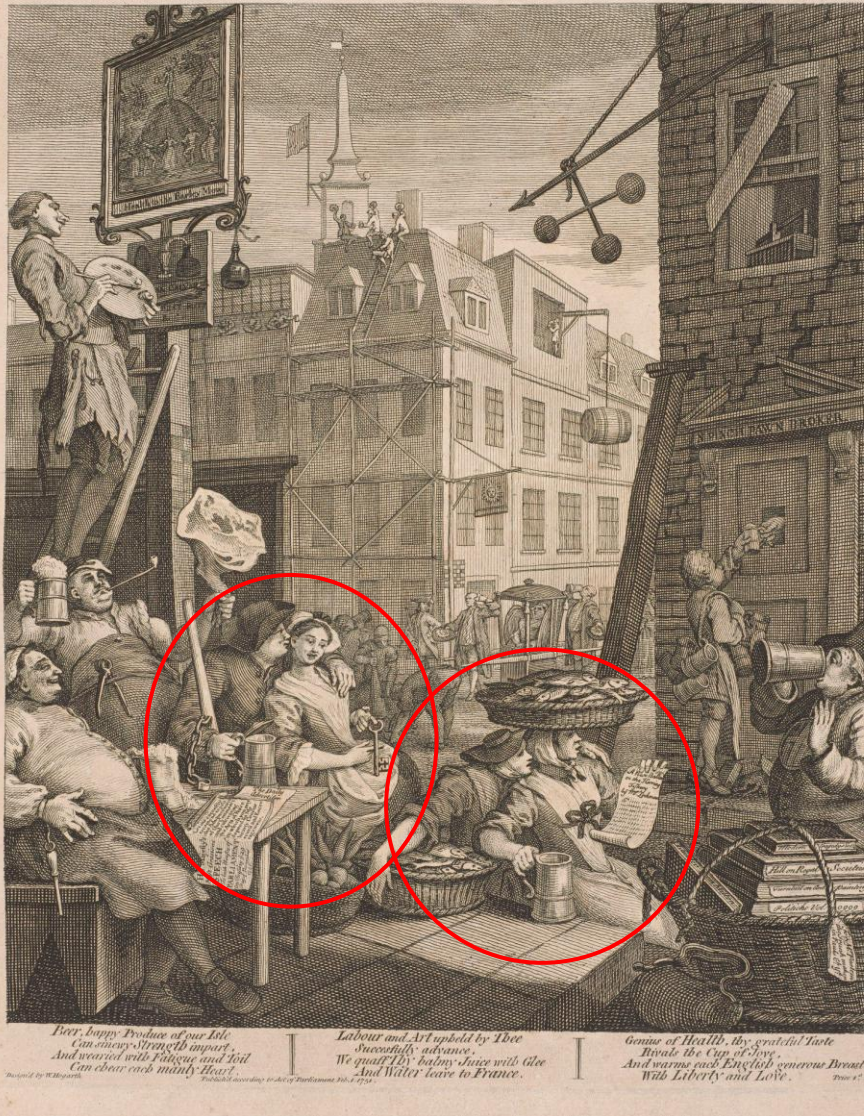


リンゴの見え方

同じリンゴでも見る人によって表現は変わる

タイトル

タイトル



問い

自立する女性とは？18世紀に男女平等は実現されていたのか？

【問いに対する自分の考え】

自立する女性とは金銭的かつ社会的に男性含む他者から影響を受けることなく生活を送っている人を指すと考えられる。それに対して男女平等とは男性と女性が同じ状況であることが議論の観点になり得る。今回提示した三作品はどれも女性が男性のように肉体労働をし、お金を稼ぎ、不貞をはたらいている。この状況は平等とは解釈出来るかもしれない。しかし公平であるとは決して言えない。

この展覧会で観覧者に投げかけたいのは「男女平等」と「男女公平」の意味の違いである。現代でよく議論される理想の男女のあり方は果たしてどちらなのか改めて考えていきたい。

「平等」と「公平」の違い

【質問1】(質問者:) *同じグループの人が入力

中央にいる女性は男性にすり寄られて嫌がっているようにも見えるが、男女平等といえるのでしょうか？

【質問1への回答】*展覧会作成者が入力すること。

中央に描かれているニンジン売りの女性たちと対比して鑑賞すると面白いかもしれません。片手にビールを持つ男性に絡まれる女性は性的搾取を受けていると考えられます。一方でニンジンを売る女性は肉体労働をこなし毅然とした様子にも見て取れます。二種類の女性を描くことでホガースは庶民のリアルを切り取るだけでなく、彼女たちを対比することで、男性に束縛される中でも自立する女性がいることを示したかった。そのようなメッセージがあるようにも思えます。男女の扱いは公平では決しないが、平等ではあるとも解釈出来ると思います。

作品名 Beer Street 作者 ウィリアム・ホガース(William Hogarth)

出典: <https://images.metmuseum.org/CRDImages/dp/original/DP825287.jpg> Public Domain



リンゴの見え方

同じリンゴでも見る人によって表現は変わる

展覧会を通しての問い

同じモチーフでも人によって見え方、描き方が異なるのはなぜか
違った表現で描かれることでどんな印象の違いがあるか

【問いに対する考え 1】()

- ・同じモチーフでも人によって見え方、描き方が異なるのはなぜか
薬効を知る人 → 実用的・機能的に見る/信仰や俗信に触れてきた人 → 呪術的・象徴的に見る...みたいに、どの分野の知識を持っているのかで解釈は変わりやすいように思う。
- ・違った表現で描かれることでどんな印象の違いがあるか
→ 観察記録的(客観的)なら「事実」「歴史」として受け取られるが、感情や物語を含む(主観的)と「語り」「噂」として受け取られやすい気がする。

作成者が設定した問い

同じグループの人の考え

「問い」を考えるための 材料となる作品



りんご / 小林古径 / 1942年

三つのりんごが描かれており、それぞれ黒、黄色、緑色と赤色になっている。白の背景に三つのりんごという余白を生かした構図になっており、りんごの色や形が目立っている。色も部分ごとの違いが丁寧に描かれている。全体的に落ち着いた色合いでまとめられており、シンプルな表現となっている。

【質問1】(質問者:) *同じグループの人が入力

もし背景が描き込まれていた場合、この作品の印象はどう変わるとおもいますか？

【質問1への回答】 *展覧会作成者が入力

背景が描かれることで今のリンゴだけの簡潔な印象がなくなり、リンゴの存在感が薄まると思います。

作品を理解するための質問と回答

活動のプロセス：ふりかえり

実践をふりかえることで、自分の「意図」を自覚し、気づいたことを言語化する。

1. なぜ、その問いを設定したのか？
2. なぜ、その資料／作品を選んだのか？
3. 同じグループの人からの問いに対する考えを読み、何を考えたか？
4. 自分の考えが変わったり、新たな着眼点を得たものはあったか？
5. 答えるのが難しかった（あるいは鋭いと感じた）質問とその理由

実践から何が得られたのか：成果

- 利用者、学習者を意識すること＝初見の人、関心が無い人を想定することの大切さ。

他の受講者からのコメント（質問や意見）が「見える化」されたことで、気づいた。

前提

つくる側は…見る側にとって必要な情報を示せているわけではない。基本的には、見る側が資料／作品をどう解釈しているかはわからない。

- 問いを考えやすくする、問いとつなげるため、資料／作品を選び、絞り込む難しさを学んだ。
 - 時代を狭めるのか、広げるのか
 - 資料／作品の種類：立体物なのか平面なのか
 - 海外の資料／作品を含むのか

課題、要望

- 著作権の確認や権利表示に関する注意…ジャパンサーチ連携機関以外のコンテンツを利用する場合は特に留意する必要がある。 **課題**
- 必要なデジタルデータあるいは参考資料をみつけるための、検索方法に関するレクチャーは不可欠である。 **課題** “検索の難しさ”
- 展示資料だけではない収蔵資料の豊かさを周知するため、登録データや連携機関の増加を希望する。 **要望**
- 共同編集機能とは異なるコメント、リアクション機能の実装化 **要望**